

ベトナム 医療従事者の育成制度

i) 医師

医師は、6年間の大学教育で養成しており、4年間の基礎教育の後、2年間の専門教育がある。

公的セクターの病院に勤務する大卒の医師は、高等教育機関に戻り、専門職、医学修士となる。その後、医学博士など上級の資格取得の機会が与えられる。

ii) 看護師・助産師

1940年代から農村部を中心とした医療職不足への対処のため、数に重きを置いた養成を行っている。具体的な養成課程としては、**初級看護師・助産師：中学卒業後医療高等学校での12ヶ月の訓練、中級看護師・助産師：高校卒業後、あるいは初級訓練修了後医療専門学校で2年半の訓練**となっている。ただし、医療業務の複雑化に伴い、数より質に重きを置いた教育訓練制度が導入され始め、**1985年には看護大学が設立**された。今後は**初級看護師・助産師はコミュンヘルスセンターでのコミュニティナース、中級以上の看護師・助産師は病院での看護師・助産師として活用する方針**となっている。看護師は、単なる医師の助手的存在から、医師とともに患者のケアの責任を負う、トータルケアを提供する主体へと変化しつつある（「ベトナム国における保健医療の現状」国立国際医療研究センター伊藤智朗2010）。